



Rotary International District 2510

測量山 (第 9G)

GOVERNOR'S

Monthly Letter

2022-2023 ガバナー月信

9

2022 Sep

No.3



国際ロータリー第 2510 地区

2022-2023 年度 ガバナー 石丸 修太郎

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西 11 丁目 4 大通藤井ビル 7F

TEL (011) 207-2510 FAX (011) 207-2512

E-mail: rid2510@pxva.ne.jp <http://rid2510.org>

2022-2023年度 国際ロータリーのテーマ

「イマジン ロータリー」



国際ロータリー第2510地区 2022-2023年度テーマ

「ロータリーに想いを馳せる」 ～明日のロータリーに夢を込めて～



【地区目標】

- ① クラブの将来像を打ち立てる
- ② より多くの会員の参加を得てクラブにおいて新たな事業に取り組む
- ③ 青少年への支援を発展・充実させる
- ④ ICTも利用して交流の輪を広げる

CONTENTS

●ガバナーメッセージ -----	1	●ISFRのお知らせ-----	16
●「ロータリーの友月間」にあたり-----	2	●ガバナー四方山話③ -----	17
●基本的教育と識字率向上月間に向けて-----	3	●ガバナー補佐自分を語る（第5グループ）-----	18
●派遣学生壮行会開催のご報告-----	4	●新会員のご紹介-----	20
●ガバナー公式訪問報告-----	5	●月信委員会からのお知らせ-----	21
●米山奨学生紹介-----	12	●札幌市内ロータリークラブ合同事務所移転のお知らせ--	21
●RI会長選出について-----	14	●表紙の解説（第9グループ）-----	22
●ガバナーノミニー候補推薦のお願い-----	15		



ガバナーメッセージ

国際ロータリー第2510地区

2022 - 2023年度ガバナー 石丸 修太郎
(札幌西RC)

7月16日に江別の市民会館にて地区の会員増強セミナーを開催しました。第2840地区の田中久夫PGを講師にお迎えし、クラブから113名の参加でした。3つのクラブから参加者が無かったのが少々寂しくありましたが、セミナーの内容はとても充実していたと感じております。会員増強は21世紀に入ったロータリーの最重要課題であります。

さて、会員増強セミナーが終わった翌週よりクラブへの訪問を開始しました。トップバッターは深川RCです。緊張も解け和やかなムードで会長幹事会とクラブ協議会と進み、例会では新入会員へのバッジを付けるという光栄なシーンを用意して頂きました。その後、皆さんで大事にされているふれあい農園の見学もさせて頂きました。

深川RCを後にして留萌に向かいましたが、翌日の訪問を前に、前夜祭ということで素晴らしい眺望を楽しみながらバーベキューを留萌RCの皆さんと楽しませて頂きました。なんとバーベキューのコンクの横で新入会員へのバッジの付与をさせて頂きました。翌日は郊外の温泉旅館で会長幹事会とクラブ協議会、それに例会を穏やかに済ませ、例会後、道の駅にある記念碑を見学してから留萌を後に行きました。

当初の予定ではその後羽幌RCへ伺う予定でしたが、コロナ感染者が出たということで延期となりました。

7月25日の週は、当別RC、赤平RC、芦別RC、砂川RC、滝川RC、千歳RC、由仁RCと7つのクラブを訪問するという強行軍でしたが、当別RCでのカラオケ大会、赤平RCでのローターアクトとの面会、芦別RCでのブドウ園見学、砂川RCでの前夜懇親会、滝川RCでのそらぷちキッズ見学、千歳RCでの分収林80年計画、由仁RCでの町内見学などなど思い出が詰まる訪問をさせて頂きました。

8月に入り1日の栗山RCを皮切りに、岩見沢東RC、江別西RC、栗沢RC、美唄RC、江別RCの6つのクラブを回らせて頂きました。どちらのクラブにおいても和やかなムードで伝統を感じさせるクラブ運営で大変勉強になりました。また米山奨学生の世話クラブでは、奨学生をお呼び頂いてとても嬉しく感謝申し上げます。

それぞれのクラブにおけるクラブ協議会で担当委員長の皆さんから単に事業計画の説明を頂くだけでなく、それぞれの皆さんのロータリーへの想いを伺っておりますが、大変貴重なものとなっております。ロータリーへの想いを共有できる仲間を増やせること大いに期待しております。

これからまだ多くのクラブに訪問させて頂きますが、どうぞロータリーの友情と寛容の心で迎えて頂けますようよろしくお願い申し上げます。なお、ガバナー会での取り扱いとして政府による人流抑制が発信されるまでは、公式訪問は予定通り行うこととしております。私が感染となれば話は別ですが、なにとぞご理解の程よろしくお願い申し上げます。

お邪魔しましたクラブの皆さんからどのような公式訪問の報告を頂けるか楽しみにしております。お付き合い頂きましたガバナー補佐の皆様本当にありがとうございました。



「ロータリーの友月間」にあたり

国際ロータリー第2510地区

ロータリーの友地区代表委員

伏木 淳
(札幌西RC)

本年度、当地区のロータリーの友地区代表委員を仰せつかりました伏木でございます。地区の皆様よりご支援ご協力いただきながら1年間務めて参りたく思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

地区代表委員の主たる任務といたしましては、①「ロータリーの友」の読書率向上と活用促進の啓蒙、②「ロータリーの友」に対する感想や意見などを地区から上げること、③地区内の各種行事などの記事や情報を上げること、などがあります。

まず、記事につきましては、ロータリーの友委員会とロータリーの友事務所にて年度ごとに様々に検討を加え、新たな特集記事を採用しています。改めて紹介しますが、冊子の左側から読む横書きのページは、国際ロータリーから提供された「全世界のロータリアンが読むべき」記事が多く含まれております。7月号には、ジェニファー E. ジョーンズRI会長の紹介記事がありますが、14ページにわたり色彩感溢れる写真を多く活用した洗練されたページになっていて、会長本人のお人柄が用意にイメージできるような内容です。

また、冊子の右側から読む縦書きのページは、日本国内の各クラブの活動や人物などを紹介するページとなっています。シリーズ「この人 訪ねて」では、7月号が青森RC初の女性会長の石川佳共子さん、8月号が三重県の久居RC会員の山川富喜子さんの記事と、今年は女性にスポットを当てる年度になるようです。

そして、全国の各クラブの活動を紹介する「ロータリーアットワーク」のページですが、7月号では、当地区の札幌東RCの「ろう者との共生社会を目指して」とのテーマの記事があり、今年4月に開催した「ろう者とのフットサル交流会」の写真が大きく載っております。

つきましては、地区内の各クラブへのお願いですが、毎月の冊子の中ほどに（8月号では43ページ）、「ご投稿をお待ちしています！」とのページがありますので、内容を確認して、ぜひ、積極的にご投稿をいただければ幸いです。

また、重ねてお願いですが、若い世代にスポットを当てた「NEW GENERATION」という特集記事があり、インターアクター、ローターアクター、青少年交換学生、財団奨学生、米山奨学生、RYLA修了者など（現職・OBとも）を紹介するページですので、どなたか記事にしたい方がおりましたら私の方に一報いただければ幸いです。（ガバナー事務所経由でお願いします。）この記事はロータリーの友事務所が直接本人に取材をするそうです。

最後になりますが、9月は日本独自で定めたものですが「ロータリーの友月間」であります。特に、ロータリー入会年数が長くない皆様には、ぜひこの冊子をお読みいただいて、ロータリーへの理解を深める一助としていただければと思います。併せて、ロータリーの友に対する感想やご意見がございましたら、ガバナー事務所経由にてお寄せいただければ幸いです。



基本的教育と識字率向上月間に向けて ～公立夜間中学「星友館中学校」の取組～

札幌市立星友館中学校

校長 工藤 真嗣

本年4月に、「札幌市立星友館中学校」が開校しました。本校は、中学校を卒業していない、もしくは卒業はしたものの、不登校などの事情により十分に学ぶことができなかつた方に義務教育の機会を提供する、北海道初となる公立夜間中学です。本校を卒業すると、中学校卒業の資格を得ることができます。

札幌では、「札幌遠友塾」という自主夜間中学が、30年以上にわたり、様々な事情で小中学校に通えなかつた方や、生活上で不便を感じていて基礎的な勉強をもう一度したい方などに学びの場を提供してきました。その方々などから公立夜間中学の設置要望があり、また、平成28年12月に「教育機会確保法」が施行され、本校の設置に至りました。

本年6月に国勢調査の結果が公表され、道内の義務教育未修了者は5万8千人以上、札幌市だけでも1万人以上いることが分かりました。また、不登校の児童生徒が全国的に増加しており、「学び直し」のニーズがさらに高まるのではないかと考えています。

さて、本校の様子ですが、7月末現在の生徒数は88名で、年齢層は15歳から80歳代まで各年代に概ね10数名の生徒が在籍しています。戦後の混乱期に農作業など働いて家計を支えたり幼い兄弟の面倒を見たりする必要があった、保護者の事情で学校に通うことができなかつた、不登校で欠席もしくは登校しても教室で授業を受けることができなかつた、などの事情で十分に学ぶことができなかつた方々です。

中学校の未卒業者は数名で、多くは形式的卒業です。また、外国籍・外国にルーツのある方は10名弱で、アジア圏の方が多いです。

本校では、国語や数学など教科の授業については、習熟度別に6つのコースを設定して授業を展開しています。生徒の皆さんは、自分の学びの状況に合ったコースを選択して学んでいます。

日本語の読み書きの習得を希望する外国籍・外国ルーツの方は「日本語コース」で学んでいます。日本語コースでは、週20単位時間のうち10単位時間を日本語学習の時間に充てています。また、漢字の読み書きに難しさを感じている方もいることから、学校が作成・配布しているプリント類は、ほぼ全てルビを振っています。さらには、個に応じた指導・支援のため、ほとんどの授業において教員を複数配置するほか、ボランティアによる個別支援も行っています。

本校の学校教育目標は、「学ぶ=(は)いきる ～より自分らしくあるために～」です。生きることは学び続けることであり、学ぶことで自分らしく生きていってほしいという願いを込めています。本校では、生徒さん同士、または生徒さんと教職員が共に学び合う姿勢を大切にしています。生徒の皆さんが、学ぶことで自分の物語を描いていけるよう、一人一人の困りに寄り添い、支え続ける学校でありたいと思います。



派遣学生壮行会開催のご報告

地区青少年交換委員会

委員 野崎 正隆

去る7月9日（土曜日）、恵庭市所在の「釜飯いちえ」にて、総勢26名参加のもと、今年度の青少年交換事業により海外に派遣される生徒2名の壮行会が開催されました。

ここで、ロータリーの青少年交換事業について改めて説明しますと、この青少年交換プログラムは、「ロータリークラブによる支援の下、15～19歳の学生が海外に滞在し、言語や文化を学びながら、海外に友人をつくり、世界市民としての自覚を養うことのできるプログラム」であり、また、「交換事業」ですので、①自国と海外のロータリークラブが相互に学生を受け入れ、生徒は複数のホストファミリー宅に滞在しながら現地の学校に通学すること、②宿泊や食事代、学費は全て受け入れ側のロータリークラブが負担すること（往復の航空券や旅行保険、旅券とビザにかかる費用や、小遣い・追加の旅行やツアーに参加する場合の費用などは学生側の負担）が最大の特徴といえます。

当地区では、青少年交換委員会が派遣学生の募集・派遣学生に対するオリエンテーション（半年以上にわたり、月1回程度、派遣学生としての心構えや出国までに準備すべきことなどをレクチャー）、受入学生への対応（日本語教師のあっせん、雪まつり観光やキャンプなどイベントの企画等）など本事業の運営を担っており、これまで年間数名の派遣学生・受入学生をサポートしていました。しかし、ご承知のとおり、2020年初頭に発生した新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020年夏以降はこの青少年交換事業が事実上活動停止に陥ってしまったため、今回の壮行会は（2019年夏以来の）実に3年ぶりの開催となりました。

今年度の派遣学生は、川口侑楠さん、水野日菜子さんの2名で、共にスポンサークラブは恵庭ロータリークラブであり、川口さんの派遣先（ホスト地区）はカナダ第5040地区、水野さんの派遣先はオーストラリア第9705地区になります。

壮行会では、まず、石丸修太郎ガバナーから2人に対する激励と祝杯の挨拶をいただいたあと、水野さんの出身校である千歳高校の金山校長、恵庭ロータリークラブの竹田会長・秋山直前会長、後藤前年度地区幹事、有田前年度ガバナー補佐ら複数の参加者から激励のテーブルスピーチをいただきました。そして、川口さん・水野さんは、スポンサークラブである恵庭ロータリークラブや地区青少年交換委員会などロータリー関係者への感謝の言葉を述べたあと、派遣先で楽しみしていることや頑張りたいことをスピーチし、最後に石丸ガバナーからお二人に対してロータリークラブからプレゼントしたジャケットを手渡していただき、写真撮影を行って盛会の内にお開きとなりました。

本年8月末には、カナダからの受入学生・タイラーさん（ホストクラブは恵庭ロータリークラブ）が来日し、来年初めにはオーストラリアからの受入学生（ホストクラブは新札幌ロータリークラブ）が来日する予定ですので、時期を見計らって歓迎会を開催する予定です。ホストクラブ関係者の方だけでなく、青少年交換事業に関心のあるロータリアンの皆様に広く参加いただければと考えておりますので、宜しくお願い致します。また、派遣学生の発掘にも是非ご協力下さい。



ガバナー公式訪問報告

※紙面の都合上や原稿の到着日により掲載順が前後する場合がございますのでご了承ください。

深川ロータリークラブ

7/19(火)

7月19日(火)石丸修太郎ガバナー、徳田雄大地区幹事、第1グループ忠津 章ガバナー補佐をお迎えし、ラ・カンパニエホテル深川に新型コロナウイルス感染症に配慮した上で、ガバナー公式訪問が開催されました。

10:30からの会長・幹事懇談会で会長エレクトを加え、当クラブの現状と本年の活動方針の報告及び情報交換をさせていただきました。

特にふれあい農園の歴史の苦労話を聞いていただきました。4年間となるこの事業に社会奉仕委員会が担当し、障害者施設とサッカー少年団、当クラブの合同で野菜を作り、秋に共に収穫し交流を深める事業であり高く評価をして頂いたところであります。

11:30クラブ協議会に各委員長による活動計画についての説明をさせていただきました。

12:30よりガバナー公式訪問例会が開催され、会長挨拶後、本年度入会した廣上晃士会員の入会式が行われ、石丸ガバナーより徽章を付けて頂きました。

また、石丸ガバナーより卓話を頂き、特に石丸ガバナーの人生における日本から出、海外での活躍の話が中心でありました。

例会終了後、市長表敬訪問のため深川市役所で、石丸ガバナーを交えて、山下市長との懇談が行われました。後、ふれあい農園を視察して頂きました。

強行日程をこなして頂き、会員一同、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



留萌ロータリークラブ

7/20(水)

7月20日、石丸修太郎ガバナー、徳田雄大地区幹事、忠津 章第1グループガバナー補佐をお迎えしてガバナー公式訪問を開催させていただきました。午前10時より会長・幹事懇談会が行われ、当クラブ申橋会長より当クラブの現状報告を行い、石丸ガバナーより現状に対する考えや対応策ならびに期待する解決策のお話を伺いました。引き続き11時よりクラブ協議会を開催し各委員長より活動方針・活動計画を発表させていただきました。

石丸ガバナーよりガバナー月信を充実するよう努力しているので、例会での情報提供等々で役立てて下さい。とお話があり今後活用させて頂きたいと思っております。

12時15分より点鐘と共に第2922回目の例会が開催されました。当クラブ申橋会長の挨拶に続き、新しくロータリアンとなりました2名の新入会員に石丸ガバナーよりロータリーバッジを胸元に着けていただきました。2名の新入会員にとっては素晴らしい思い出になることでしょう。

昼食をはさみ石丸ガバナーの講話からは、地区大会・新会員合宿セミナー・ガバナー月信の活用について。また、会員増強に関しては衛星クラブについての説明をいただき、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。例会終了後はガバナー、ガバナー補佐と共に記念撮影を行い、ガバナー公式訪問を終了いたしました。

余談ではありますが、留萌の夏の一大イベント「るもい呑涛まつり 行灯行列」にガバナー・加藤ガバナー補佐が駆けつけていただけるとお聞きし、会員一同大変楽しみにしております。

石丸ガバナー、徳田地区幹事、忠津ガバナー補佐、ご来留いただき本当にありがとうございました。そして、大変ご苦労様でした。



当別ロータリークラブ

7/25(月)

晴天に恵まれたこの日は16:30より会長・幹事懇談会、17:30よりクラブ協議会が行われました。

クラブ協議会での活動報告についてはガバナーより「クラブが一体となって活動されていることをうれしく思います」との感想を頂きました。当クラブは今年度、既に2名の新入会員を迎えていますが、会員増強について「お願いして入って頂くと言うよりは、向こうから入りたくするようにして頂きたい。興味を持って入って頂く。それにはロータリーが魅力的になる必要があります。そしてそのためにはそこにいる方々が魅力的でなければなりません」とお話がありました。

そして「会員の皆様がそれぞれお互いに興味を持って、何をやっているのか？どんな人なのか？その人から学ぶことはないのか？という興味を持った方々が集まっているのがロータリーで、それが今日まで発展してきた要因だと思っています」とのお話も心に残りました。

その後、自己紹介として、高校から大学、大学から会計士になった経緯を話され、ざっくばらんに話される内容に共感を覚えるとともに、そのお人柄に触れる機会となりました。

夜間例会でしたので会食を共にしながら久しぶりのガバナーとの懇親を深める場となり、親睦もまた会員相互理解の手段として欠かせないものだと再認識させられました。今年1年、石丸ガバナーと大いにロータリーを感じながら充実した活動ができるようにしたいと思います。



赤平ロータリークラブ

7/26(火)

7月26日の火曜日、石丸ガバナーが赤平RCを訪れた。随行は第2グループの高山ガバナー補佐と下村地区副代表幹事のお二人。10時30分から「会長・幹事懇談会」、11時30分からは「クラブ協議会」、12時30分から「ガバナー公式訪問例会」と続いた。この間の3時間が生み出した果実を、以下に記したい。

【強いローターアクトへの想い】

赤平ロータリークラブ（以下、RC）の大きな特徴は、ローターアクトクラブ（以下、アクト）を持っていることにある。ここ数年、RIのアクトに対する力の入れようは目覚ましいものがあり、ガバナーもそれに大きく賛同されていた。

クラブ訪問の前日、高山ガバナー補佐から「アクトの例会出席があるのか」との問い合わせがあったことから、その想いの強さが感じられた。会長・幹事懇談会においても、時間の多くは、アクトの活動や会員増強についての意見が交わされた。

実際、例会にはアクトから会長と会計（元地区代表）が出席し、それを知った瞬間、ガバナーの表情が緩んだ。

【会員増強について】

ガバナーは「基本的にロータリーはクラブが主体」、クラブの活動を楽しいものにし、その結果、会員が増えていることが望ましいと言われた。例会では会員増強の秘策として、青少年交換プログラムを活用しての会員募集を紹介された。16歳から18歳の子どもの持つ親が対象になるが、RCでしか実現できないことを強調された。

【定量的・合理的な視点】

クラブ協議会でのこと。ガバナーはあるクラブの例を挙げられた。それはニコニコの金額が、そのまま翌年の奉仕活動費にしているという例だった。一人の会員が年間で2万円のニコニコをするのがアベレージのようで、2万円に会員数を乗じた金額が奉仕活動費になるという。一人年間5万円のニコニコには無理があるという。

会計事務所を本職とされるガバナーならではの視点だった。この視点が地区の予算に反映されたのだと感じた。

新しい年度に入り間もない時期に当クラブに訪問され、示唆に富むお話を賜りましたこと、感謝申し上げます。また、随行された高山ガバナー補佐にも感謝申し上げます。



芦別ロータリークラブ

7/26(火)

年度がスタートして早々の「ガバナー公式訪問」。例年、第2グループは、この時期が慣例となっていることから、早め早めの準備等を進めた効果が実り(?)当日は大きな混乱や問題も生じず無事全てのプログラムを終了することが出来ました。諸先輩たちからは「公式訪問が終われば、1年の半分が終わったといっても過言ではない」と言われておりましたので、ずっしり重かった肩の荷がずいぶん軽くなったような気がします。

当日は、芦別RCの会員が経営している日本一の面積を誇る「さくらんぼ園」をガバナー・ガバナー補佐・地区副代表幹事が訪問し、たわわに実ったさくらんぼを食され、その甘さと粒の大きさに大変感動され、喜ばれていたとの報告を頂きました。

午後4時30分からの「会長・幹事懇談会」では、当クラブの現状や概要等について報告させて頂きました。その後の「クラブ協議会」では各委員会より今年度の活動計画や諸先輩たちが築き上げた歴史と伝統に培われた特色ある活動を、詳しく補足説明させて頂き、ガバナーからも称賛のお言葉を頂戴致しました。

どちらも、大変和やかな雰囲気の中、今年度の活動の活力となるようなアドバイスやご講評を頂き、有意義な時間を持つことが出来ました。

そして、午後6時30分からの例会では、4月に入会した会員に直接ガバナーからバッジをつけて頂く時間を設け、クラブとしても、新入会員にとりましても、この先思い出に残るシーンとなったことと思います。

夕食後、クラブの多彩な伝統のひとつ「バナー交換」を行いました。久しく無かったバナー交換ですが、友愛の印として早速飾らせて頂きました。

その後、ガバナーより奉仕活動に対する考え方やRI会長指針にも触れられ、また全世界共通の課題である「会員増強」に向けての取り組みや、他クラブの事例等もご紹介頂き、学びを深めました。予定時間通りにご講演を終えられ、全会員と石丸ガバナー、高山ガバナー補佐、下村地区副代表幹事を囲み、公式訪問例会が終わった!という安堵感満載の表情で一同写真に納まりました。

今回の訪問でガバナーから頂いた貴重なご助言等を参考に今後の芦別RCの更なる発展へと繋げていければと思います。



砂川ロータリークラブ

7/27(水)

7月27日（水）、石丸ガバナー・高山ガバナー補佐・下村地区副代表幹事をお迎えし、公式訪問例会が開催されました。午前10時30分の会長・幹事懇談会では、会員数の流れを報告し、ここ数年、毎年1名から2名ほど新入会員を増やしておりますが、クラブの平均年齢が65歳と高く、毎年1名から2名のお亡くなりになる方があり、会員数の増加に至っていない事を報告いたしました。また、クラブの悩みであります、会長のなり手はおりますが、幹事のなり手が、非常に厳しく、入会2年から3年の方をお願いしていかなければならず、苦慮している旨の報告を致し、石丸ガバナーからは、入会2年から3年の方に幹事としてるクラブもあり、仕事量を簡素化したり、皆様のご協力を頂きながら進めることが大事とお話を頂きました。

11時15分からのクラブ協議会は、理事・役員・委員長出席のもと、職業奉仕・社会奉仕へとはじまり全ての委員会の活動報告が発表され、ガバナー総評として、社会奉仕委員会の砂川高校3年生を対象に新社会人になる為の進路講和として、出前講座を実施していることに素晴らしとお褒めの言葉を頂きました。それぞれの委員会に対して総評を頂いたところです。

12時30分より公式訪問例会が開催され、石丸ガバナーの卓話を頂き、国際ロータリースキー同好会のスキーウィークが、日本で初めてのニセコ開催について述べられ、会員増強するロータリーは、組織として魅力があるクラブでなければならず、会長は、メンバー皆さんから信頼感がなければならない事。

皆さんが、自分の今のロータリーライフを如何にお互いに生きるか。

皆で作上げていければ、それは最高のロータリーになる。当然仲間も増えるでしょう。

ぜひこの地区でも夢をもってロータリー活動をやり、2年後、3年後、もしくは5年後このクラブがどうなっていくのか、新しいことや『どんな事ができるのだろう』と考ただけで楽しくなると思います。

しいては、この街を引っ張って行く。この地域を引っ張って行く。たくさんの子供たちが喜んでくれる地域にするために、ロータリーは何ができるのか、いろんなことができると思います。まずは、ロータリーライフをエンジョイして頂いて、この地域の貢献に高まって頂きます様、熱い思いを語って頂き、今後のロータリー活動に参考になるお話を頂きました。

非常に有意義に卓話を頂き例会を終了いたしました。



滝川ロータリークラブ

7/27(水)

新型コロナウイルス第7波の感染拡大が心配される中、7月27日水曜日、第3302回ガバナー公式訪問例会がホテル三浦華園にて開催されました。石丸修太郎ガバナー、高山訓正ガバナー補佐、下村卓也地区副代表幹事臨席のもと、午後6時30分からの例会開始でしたが、何とか公式訪問は行いたいとアルコールを伴わない夕食例会形式といたしました。

例会に先立ち行われた会長・幹事懇談会では、クラブ概要の説明と現況報告を行いました。ガバナーは、クラブ運営にも大きな影響を与える新型コロナウイルスの状況下で90名近くを維持する滝川RCの運営、とりわけ会員数に関心をもちました。会員相互が親睦を通じて友情と絆を深める同好会活動や、年6回開催される夜間例会の他に夜間年6回開催される「木曜フォーラム」と称される会員卓話の集会や新入会員がクラブに溶け込めるようなコミュニケーションづくりを委員会の枠を超えて行っていることに高い評価をいただきました。

クラブ協議会では、各委員長より今年度の国際ロータリー・地区方針及び地区目標、当クラブスローガン「凌霄之志」に基づく委員会基本方針及び活動計画が発表されました。活動計画書には記載されていない各委員長の熱い思いにガバナーからは一つ一つの委員会に対して激励や助言をいただきました。あらためて基本方針・活動計画を再認識し、今後につながる貴重な協議会となりました。

例会では当クラブ藤井謙和会長より歓迎の言葉が述べられ、終始楽しく和やかな雰囲気に入れられたお食事後、ガバナーから「ロータリーに想いを馳せる」について様々な視点からの卓話をいただきました。急速に変化する時代においても、勇気をもって新たな事業に挑戦し乗り越えていかなければならない、ロータリークラブの価値の原点、気概を感じさせていただく大変貴重なお話をいただきました。

今回の訪問により会員は大きく力づけられ、先輩諸兄に対する敬意と感謝を含め、更なるクラブの発展、次世代に伝えていくという責務を感じる機会となりました。特に入会歴の浅い会員は将来に向けて大切な学びの機会をいただきました。

結びに、ガバナー所属の札幌西RCとのバナー交換式が行われたのち、石丸ガバナーを囲み全員で記念集合写真撮影を行い、無事公式訪問例会を終えることができました。

暑さきびしき折、石丸ガバナーにおかれましては、ご訪問に際し貴重なお時間を割いていただきましたことに感謝申し上げます、ますますのご健勝を御祈念申し上げますとともに、会員一同心より御礼申し上げます。



千歳ロータリークラブ

7/28(木)

7月28日（木）石丸修太郎ガバナー、第7グループ五十嵐宏ガバナー補佐、下村卓也地区副代表幹事をお迎えしてのガバナー公式訪問が開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、政府の指針に基づきマスクを着用し、一定の距離を置くなどの感染防止対策を施し無事に開催することができましたことを関係者の皆様方に深く感謝いたします。例会に先立ちましては例年通り会長・幹事懇談会並びにクラブ協議会も開催され、石丸修太郎ガバナーに当クラブの現在の状況や今年度の活動計画等についてご理解いただいた上で、今後のクラブ運営についての貴重なご意見を承りました。

和やかな雰囲気の中行われた会食後の例会では入会式での新入会員へのバッジの授与のお手伝いもしていただきました。そして卓話ではRIテーマ「イマジンロータリー」、地区テーマ「ロータリーに想いを馳せる～明日のロータリーに夢を込めて」について改めてその熱い思いをお話ししていただき、今年度の四つの地区目標を中心にこれからのロータリークラブの在り方、取り組み方についてご指導いただきました。

例会終了後は石丸修太郎ガバナーを中心に記念撮影を行い、ガバナー公式訪問を終了いたしました。お忙しい中お越しいただきました石丸修太郎ガバナー、第7グループ五十嵐宏ガバナー補佐、下村卓也地区副代表幹事に心より感謝申し上げます。そして10月に開催される地区大会の成功を心よりご祈念申し上げ報告とさせていただきます。



米山奨学生紹介

「海のないところから来て」

2022-23年度米山記念奨学生

YILAGAQI（イラガチ）

室蘭工業大学・室蘭RC

室蘭工業大学博士後期課程工学専攻3年生のYILAGAQIです。

私は2017年に海のないところ「中国・内モンゴル自治区」から日本へ留学に来て6年目になります。最初来た時は、日本語コミュニケーション能力が低く、生活面では、周りに朝食レストランがない、調味料を判別できないなど、慣れないことも多かったです。特に和訳の専門語がわからないため勉学が一番困っていましたが、指導教官の清水一道教授のご指導の下、5年に渡ってだんだん留学生活や勉学に慣れて来ました。

現在、私の研究課題は自動車のスクラップのリサイクルについてです。自動車は高強度化及び軽量化の観点から、合金元素の添加や組織制御によって一般構造用圧延材よりも強度を向上させた高張力鋼が使用されており、使用量が年々増加していることから高張力鋼の再利用による鑄造部品の生産が急務です。しかし、高張力鋼にはマンガン（Mn）が2.0%以上含有しており、鑄鉄においてはチル化傾向を促進し、材料の靱性や被削性が低下するという欠点をもっているため、高張力鋼のリサイクルは困難な問題を多数内包しています。現状ではこの問題の解決策として脱Mn処理や高純度銑鉄によるMnの希釈などが考えられていますが、コストアップや脱Mnによるスラグ処理などの問題が起こります。そこで、Mnを除去せずに高張力鋼スクラップを原料としてJIS規格の鑄鉄に再利用できれば、リサイクル率の向上やコストダウンが期待されます。そのため私の研究では高張力鋼の再利用によるMn含鑄鉄の実用化を目的とし、Mnを2%含有する片状黒鉛鑄鉄（高Mn片状黒鉛鑄鉄と呼びます）の機械的性質について調査を行っています。研究結果の一部として高Mn片状黒鉛鑄鉄は汎用片状黒鉛鑄鉄に比べ疲労強度が優れることが確認されており、学会誌「鑄造工学」に研究論文にて掲載されることになりました。

最初日本へ留学する時は、博士号を取った後、地元に戻って大学の先生になる予定でしたが、日本人学生の明確なライフプランができていない姿を見た時、自分自身や周りの若者たちの明確なライフプランができていない状態に気がきました。そこで、将来的には専門知識を広げる大学の先生だけではなく、地元の学生たちのライフプランアドバイザーになりたいと思うようになりました。しかしながら、そのようになるには、博士号を取るだけでは不十分であると感じるため、卒業後は博士研究員になって研究に努めながら、日本人研究者及び教育関係者たちの優れた姿勢を身に付けてから地元に戻りたいと思います。



2022-23年度米山奨学生

「私の夢」

チャイ・ソダビィ

酪農学園大学・江別RC

一年半という米山記念奨学生の体験は、自分の夢にとって非常に貴重な経験だと思います。毎月江別クラブの例会に参加する際に、いろいろな話や悩んでいることなど、カウンセラーが相談に乗ってくれて、悩みを解決出来、心から暖かいと感じています。ライラセミナーのようなイベントも国際的にすごく勉強になり、とても嬉しいです。国際ロータリーの皆様に心より感謝申し上げます。

私は子供の頃から日本に留学したいという夢がありました。私は発展途上国カンボジアの出身で、ベトナム政府奨学金の留学生として、ハノイ市にある大学獣医学部を卒業しました。元々私は貧しい家庭で育ちましたが、将来にはたくさんの希望を持っています。私の家族、祖国カンボジアにとって日本が一番良い国だと思います。酪農学園大学附属動物医療センターでのティーチング・アシスタント（TA）の仕事が、自分自身の未来にとって偉大な経験になると感じます。動物医療センターには人間の病院と同じく、画像診断科、麻酔科、内科、整形外科、腫瘍科、眼科などがあります。私の専門は画像診断です。そこには、レントゲン、超音波、CT、MRI があります。それらの検査が出来るようになることが将来的に役に立つものです。大学院生としての獣医学研究科、博士課程ももう少しで卒業になります。帰国した後に日本から得た新しい知識や技術を絶対に活用出来ると信じています。今まで自分に厳しく研鑽に励み、全く異なった言語、時間管理のあり方に順応出来、素晴らしかったと誇れます。

最初に日本に来た頃と比べて私の知識とコミュニケーション能力はすごく良くなったと思います。私が学んだハノイの獣医大学やカンボジアではそのような機会がまだ不足しています。そこで、私は確かな知識を身に付け、母国のカンボジアの役に立ちたいです。獣医学の専門知識を取得するだけでなく、お互いに信頼できる人間関係を築く事を大切に考えています。信頼できる友人、知人をたくさん作った後、それらの人と協力して、カンボジア社会に貢献したいと思っています。将来は小動物病院を開業し、地域の動物医療と動物福祉に貢献したいと思っています。加えて、カンボジアあるいはベトナムの大学の教育にも貢献したいです。カンボジアは未だ多くの問題をかかえておりますが、少なくとも私はカンボジア社会を改善するために参画し、その活動を広めて行きたいと思っています。日本という国と人々が、いかに素晴らしいかを、若い世代に伝えることも夢の一つです。日本で学んだ自分の専門知識に加えて、私の経験をカンボジアの人々と分かち合いたいと思っています。さらに、日本の人々は親切で、礼儀正しく、技術や教育システムが素晴らしい国です。日本の素晴らしい文化や生活習慣を体験して、日本とカンボジアの懸け橋になりたいです。国際関係を通じて交換留学生などを応援したいと思っています。国の発展のために、獣医医療を盛り上げることや、いろいろなプロジェクトに取り組みたいという夢があります。





2024-25年度 国際ロータリー会長に ステファニー A. アーチック氏が 選ばれる

マクマリー（McMurray）・ロータリークラブ（米国ペンシルバニア州）会員であるステファニー A. アーチック氏が、会長指名委員会により2024-25年度国際ロータリー会長に選ばれました。

アーチック氏は女性として史上二人目の国際ロータリー会長となります。対抗候補者が出なければ、10月1日に会長ノミネーとして宣言されます。

新型コロナウイルスの大流行、気候変動による災害、多くの地域での紛争など、世界が非常に大きな課題に直面する中で、これらの課題を乗り越えるためのビジョンとプランをロータリーが提供できると、アーチック氏は言います。

「危機的な課題を乗り越え、解決するためにロータリーのリーダーたちが取る措置は、組織を強くし、将来の出来事に対する組織の回復力を高めるもの」とアーチック氏。「このような重要なリーダーシップは、奉仕し、危機を解決するためにロータリアンが行動人として力を合わせるなら、それがライバル同士であっても、新しいレベルの協力を生み出します」

組織再編を優先することが極めて重要だと、アーチック氏は言います。

「ロータリーは200以上の国と地域で活動しています。ロータリアンが協力して奉仕や高潔性の推進、世界理解と親善、平和の推進に取り組む上で、地域差が及ぼす影響を理解し、それに対応することで、ロータリーはより効率的、効果的になる可能性を秘めています。そのことを認識することがとても大切です」とアーチック氏。

アーチック氏は、コンサルティングと研修を専門とするDoctors at Work LLC社の共同経営者兼最高執行責任者です。ペンシルベニア州立インディアナ大学でリーダーシップ学の博士号を取得。地域社会で数々の団体の理事を務め、Zonta InternationalやSons of the American Revolutionといった団体から表彰されています。

1991年にロータリー入会。ベトナムに赴いて小学校建設を援助したほか、ドミニカ共和国では浄水フィルタの設置を援助。複数のスラブ系言語を学び、ウクライナの新ロータリアンへのメンタリングやポーランドでのロータリー財団補助金プロジェクトの調整役もこなしました。

ロータリーでは、理事、財団管理委員、RI戦略計画委員長、財団100周年祝賀委員長を歴任。現在は選挙審査委員会と運営審査委員会の委員を務めています。ロータリー財団のメジャードナー、遺贈友の会会員。

2024-25年度国際ロータリー会長指名委員会のメンバーは次の通り（敬称略）：Floyd A. Lancia（委員長、Anthony Wayne (Fort Wayne)ロータリークラブ、米国インディアナ州）、Guiller E. Tumangan（幹事、Makati Westロータリークラブ、フィリピン）、Jeffry Cadorette（Mediaロータリークラブ、米国ペンシルバニア州）、Bradford R. Howard（Oakland Uptownロータリークラブ、米国カリフォルニア州）、Per Høyen（Aarupロータリークラブ、デンマーク）、Peter Iblher（Nürnberg-Reichswaldロータリークラブ、ドイツ）、John M. Lawrence（Paddingtonロータリークラブ、オーストラリア）、Jan Lucas Ket（Purmerendロータリークラブ、オランダ）、北清治（浦和東ロータリークラブ、日本）、Sam Okudzeto（Accraロータリークラブ、ガーナ）、Bharat S. Pandya（Borivliロータリークラブ、インド）、Kamal Sanghvi（Dhanbadロータリークラブ、インド）、José Ubiracy Silva（Recifeロータリークラブ、ブラジル）、David D. Stovall（Hall Countyロータリークラブ、米国ジョージア州）、Bryn Styles（Barrie-Huronロータリークラブ、カナダ）、Giuseppe Viale（Genovaロータリークラブ、イタリア）、Chang-Gon Yim（Daegu Westロータリークラブ、韓国）

2025－2026年度 ガバナーノミニー候補者推薦のお願い

地区ガバナー 石丸 修太郎
地区ガバナー指名委員長 福田 武男

2025－2026年度地区ガバナーノミニー候補者として適格な会員が在籍しており、地区ガバナー指名委員会の審議を希望する地区内クラブは、12月1日必着にて、地区ガバナー指名委員長（地区ガバナー事務所気付）宛、文書（書式任意）をもってご推薦下さい。

なお、地区ガバナーノミニー資格条件については、国際ロータリー細則第16.010.節～第16.020.節の資格条件に適していることを要します。

第16.010. ガバナーノミニーの資格条件

理事会によって許可されない限り、ガバナーノミニーに選ばれる人物は、選出の時点で、

- (a) 地区内の機能しているクラブの瑕疵なき会員であるものとする。
- (b) クラブ会長を全期務めた経験があること、または最低6カ月間クラブの創立会長を務めた経験があるものとする。
- (c) 第16.030.節のガバナーの任務と責任を果たす意思があり、これを果たすことができる者であるものとする。
- (d) 細則に定められているガバナーの資格条件、任務、および責任を熟知しているものとする。
- (e) このロータリアンが、ガバナーの資格条件、任務、責任を理解し、ガバナーとしての資格条件を備えており、これらの任務と責任を引き受け、これを忠実に果たす意思を持ち、それができる状態にあることが明記された声明書をRIに提出するものとする。

第16.020. ガバナーの資格条件

理事会によって許可されない限り、ガバナーは、就任時に、国際協議会に全期間を通して出席しており、少なくとも7年以上ロータリアンであり、第16.010.節の資格条件を引き続き保持していなければならない。

[参考] 国際ロータリー細則第12条（ガバナーの指名と選挙）

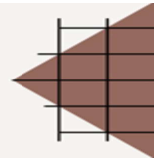
国際ロータリー第2510地区 地区ガバナー指名委員会規定

（1998-1999年度地区年次大会決議第8号）

2019年手続き要覧抜粋



ISFRのお知らせ



2023年2月11日から1週間、倶知安RCがホストクラブとなってISFRの集まりがニセコのスキー場で開催されます。ISFRはInternational Skiing Fellowship of Rotariansの略ですが、国際ロータリーに認められたスキー同好会です。

昨年はコロナ禍にもかかわらず43名のロータリアンがカナダのバンフに集まりました。また 今年の9月にはオーストラリアのフォールズクリークでの集まりがあります。また来年1月の末にはイタリアでの集まりが予定され、3月にはユタ州パークシティでの計画もあります。

更には、2024年3月にはスイス、2025年3月にはオーストリア、2026年3月にはブルガリアでの集まりも計画されています。

ISFRは同好会ですので、希望する方は35ドルの年会費を払うことですぐに入会出来ます。ホームページからいつでも登録できます。<https://www.isfrski.org/>

Welcome to the International Skiing Fellowship of Rotarians (ISFR)

What is ISFR?

Skiing is enjoyed worldwide by thousands of Rotarians and their families of all ages and abilities. What better and more enjoyable avenue to build new friendships and international understanding than to join your fellow Rotarians and sharpen your skills on the slopes of the world or see the world on cross-country skis! Not only will your physical fitness improve, but with a closer understanding of Rotary ideals, membership will enrich your spirit as well.

By joining the Fellowship, you will not only meet Rotarians from around the world who share your interest in skiing, but you will create lasting friendships.

2022-23 ISFR Ski Events

North American
Ski Week
Mar 4 - 11, 2023
Park City, UT, USA

The 3 Park City Rotary
clubs will be our host clubs.

Japan Ski Week
Feb 11 - 18, 2023
Niseko, Hokkaido,
Japan

Our host club is the
Rotary Club Kutchan.

European Ski Week
January 28 -
February 2, 2023

Roccaraso,
Abruzzo, Italy

是非皆さんも参加して、国際交流を楽しみませんか？私は登録しました。(石丸 修太郎)

ガバナー四方山話

第3回 異国で職を得る YUP?

渡米した翌年、1979年7月にPeat, Marwick, Mitchell & Co.というその当時はビッグ8と呼ばれた会計事務所のNY事務所の監査部門に就職することが出来ました。部署はJapan Practiceと呼ばれる日系企業担当部門で、アメリカに進出してきている日系企業のお世話を、監査から税務、経営相談までなんでもするところだったので、幅広い知識を身に付けることが出来ました。採用されたこの部署には10数名の日本人が居たのでとても助かりました。

勤めて3年もたつとシニアと呼ばれ、監査チームの現場監督のような仕事をするようになりました。チームには、日本人ばかりではなくアメリカ人のスタッフも入っていました。

思い出に残っているのは、キャシーという新卒でしたが優秀な女性で、2年続けて同じクライアントの仕事を一緒にした時、税務も良く理解していて、監査を行いながら申告書の下書きまで作れるようになり、とても良い評価を上げたのですが、年度末の面接で、アメリカ人の上司から日本人の評価は参考にしないと言われ、愕然として、その後事務所を辞めてしまいました。でも、彼女のすごいところは、その後law schoolに入り弁護士の資格を取ったうえ税務の専門家になったとのことでした。

会計事務所に就職すると会計士の資格と言うものが必然と求められ、自分も受験しようと申し込みをしたら、日本の大学の単位では受験資格が足りないとのことで、仕方無く勤めながら夜学に通い、足りない単位を取るところから始めました。

1年半かけてようやく単位を取りいざ受験してみると、計算科目はあっさり合格したのですが、論文科目は大変でした。英語での筆記は大学受験で散々な目にあってからトラウマ状態でしたから、3年掛かってようやく合格したときは、喜びというより安堵感に包まれた記憶があります。

その当時は健康ブームで、ビシッとスーツで決めたキャリアレディも足元はスニーカーで徒歩通勤して会社でハイヒールに履き替えたり、それまでランチミーティングにはビールやワインが付き物だったのが、いつの間にかペリエに代わってしまったりしていました。

ましてYUP (young urban professional) を自称する若者は実に健康的で、仕事も沢山するし運動やレジャーもこよなく愛するという良い子の見本のような生活をしていました。YUPになれない自分は、関与先で残業した後、関与先の日本人の方と一緒に食事に行き、一杯やった後ピアノバーに繰り出し少々飲んで、翌日二日酔いでまた仕事をするということを繰り返していました。

仕事と試験に追われる中での一番の楽しみは食べることですが、マンハッタンは世界中からあらゆる人種が集まっていて様々な料理を楽しむことが出来ました。イタリアン、フレンチ、中華、インドなどは良くいきましたが、特に韓国料理は、安くて美味しくて量があるということで、大好きになりました。日本料理店はその当時から高くて安月給の身にはなかなか手が出るものではありませんでした。

ガバナー補佐自分を語る

「青天の霹靂」

国際ロータリー第2510地区

第5グループガバナー補佐

平 昌夫 (札幌南RC)



「青天の霹靂」

東京の大学の理系機械科を卒業後、そのまま東京の大手重工業の会社に就職し3年が経った頃、それは突然起きたのです。

学生時代にスキーで鍛えた身体で猛烈に働き、仕事を覚えて自信もつき「自分に合った仕事でやりがいもあるな!」と感じていましたし、次は豪州での10年に渡る大規模プロジェクトに挑戦が決まっています仕事に没頭している時期のことだったので。

それは木製家具・建具製造業を営む父からの電話でした。

「札幌に戻って仕事を手伝ってくれないか」「えっ?」これぞまさに「青天の霹靂」でした。次男の私は、父から「家業は長男が継ぐのでお前は自分の好きな道を歩みなさい」と言われていたからです。

「人生二度なし」

そんな父からの電話でしたので、「仕事も順調。休日には趣味を楽しみ東京ライフも満喫」「しかし、札幌に戻るのも魅力あるな」「父や兄の助けにもなりたい」等々、大変迷いました。

最終的には「父・兄と一緒に経営に携わっていこう!」と決断したのです。

その当時の仕事に決して不満はありませんでしたが、長い人生、ずっと勤め人でよいのか?という疑問・葛藤は持っていました。

自分の道はどちらが合っているのかはわかりませんが、その時、「家族の一員」としての潜在意識がそういう決断をすべきと選択したと思うのです。

「人生二度なし」一度きりの人生ですから、その決断・選択を大事にして生きていくことが良き人生なのではないかと考えています。

「再びの青天の霹靂」

なんと私は平成11年の38歳で代表取締役社長に就任致しました。

その前に代表取締役社長であった兄が様々な事情で兄の義父が経営していた会社を継ぐこととなったのです。これもまさに「青天の霹靂」でした。

新工場が稼働し始めた頃ですし、建設不況がさらに厳しさを増していた頃でもあります。

責任の重さに眠れない日も多々ありました。

人生というものは、目には見えないけれども、間違いなく大きな流れがあり、その激流に翻弄され、うねりの中に乗せられているような錯覚を覚えたような気が致します。果たして自分に務まるのかどうか。自分の家族を守り、従業員とその家族を守っていく重責をひしと感じていたのです。

「ご縁」

そんな激動の中で兄からロータリークラブへの入会を初めて勧められたのです。

入会すべきかどうか、ここでも大いに迷いました。

まだ30代の私が入会にふさわしいのかどうか。

会社の経営状況が厳しい中で入会すべきかどうか。

そのような不安はありましたが、ここは前向きに捉え「多くの先輩経営者の方々から学ぼう！」と決意し入会させて頂きました。

今、振り返ってみますと、決断し入会させて頂き本当に良かった！

素晴らしい先輩や仲間の方々と「ご縁」が出来たからなのです。

仕事の相談は勿論のことプライベートな相談、楽しい飲み会やゴルフ等、今では本当にかげがえのない先輩・仲間の方々ばかりです。「ご縁」に心から感謝です。

おかげ様で在籍24年となり大変多くの貴重な経験をさせて頂きました。

地区におきましては

- ・2001-2002年度（岩城ガバナー）地区幹事
- ・2016-2017年度（武部ガバナー）地区副代表幹事

この他、地区財団委員会出向などもあり、札幌南RCだけではなく多くの他クラブの方々とも「ご縁」を頂きました。心より感謝申し上げます。

「最後に」

現在、私も62歳を迎えましたが、札幌南RCの平均年齢を少し超えております。

まだまだ経験・勉強不足ではありますが、今までの経験・学びを少しでも皆様にお伝えし

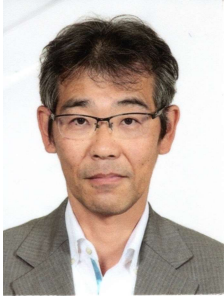
お役に立てればと考えております。

私にとりまして「ガバナー補佐」という役割はまだまだ荷の重いものですが、その役割を果たすべく誠心誠意努力してまいります。

今後ご理解・ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

新会員のご紹介

敬称略



長万部RC
新村 宏一郎
令和4年7月14日
信用金庫



千歳RC
田口 さつき
2022年7月14日
介護事業



千歳RC
興石 将次
2022年7月14日
自動車部品製造



千歳RC
佐藤 伸治
2022年7月28日
信用金庫



苫小牧RC
井部 栄二郎
令和4年7月29日
生命保険



小樽RC
太田 智子
令和4年8月2日
新聞発行



小樽RC
比良 友彦
令和4年8月2日
通運業



砂川RC
村上 雅拓
令和4年8月3日
電気事業



江別RC
高垣 智
2022年8月18日
病院事務



苫小牧RC
貴志 雅之
令和4年8月19日
新聞発行



苫小牧RC
平川 昌之
令和4年8月19日
地方銀行

月信委員会からのお知らせ

従来ガバナー月信に掲載されておりました以下の記事は、今年度は地区ホームページに掲載をしております。地区ホームページ (<http://rid2510.org>) をご参照ください。

【ホームページ掲載記事】

- ・ガバナー補佐名簿
- ・ガバナー公式訪問日程
- ・地区カレンダー
- ・ガバナー事務所スタッフ・担当
- ・地区予算
- ・地区クラブ会長・幹事名簿
- ・地区組織図
- ・ハイライト米山
- ・コーディネーターNEWS
- ・ロータリー定期報告関係 等



RI 2510地区ホームページ
QRコード

札幌市内ロータリークラブ合同事務所移転のお知らせ

札幌市内ロータリークラブ合同事務所が、2022年 8月22 日(月)より、下記に移転いたしましたのでお知らせ致します。

【移転先住所】

〒060-0002 札幌市中央区北 2 条西 3 丁目 敷島ビル 812

TEL 011-231-1297 FAX 011-222-2744 ※TEL・FAX に変更はございません。

※各クラブメールアドレスに変更はございません。

札幌市内ロータリークラブ合同事務所

札幌ロータリークラブ

札幌南ロータリークラブ

札幌東ロータリークラブ

札幌西ロータリークラブ

札幌幌南ロータリークラブ

札幌手稲ロータリークラブ

札幌真駒内ロータリークラブ

表紙の解説（第9グループ）

測量山からの眺望

室蘭半島の中心にある測量山は明治5年(1872年)に室蘭と札幌間の道路建設の「測量の基点」とされたことからこの名があり標高199.6mの山です。この頂上からは第9グループの登別、洞爺湖、伊達が一望でき、第二次世界大戦の時には太平洋を見張るトーチカもありました。登別、洞爺湖は北海道屈指の温泉地であり多くの観光客が訪れます。また、伊達氏市は噴火湾に面し温暖な気候に恵まれ農業の一大集積地となっております。

室蘭は今年開港150年市制施行100年を迎えました。明治維新後の重工業発展の基礎となる製鉄業をスタートさせ北海道開拓の基点となりました。それから67年後の室蘭の話です。

希望の灯(ともしび)測量山ライトアップ



1987年不況に沈む重化学工業都市室蘭での事です。室蘭は開港以来、製鉄、造船、機械工業で栄えて来ました。戦後の高度成長も頭打ちになり、2月に鉄のマチ室蘭のシンボルである高炉の火が消える大合理化計画が新日本製鉄室蘭製鉄所（現日本製鉄（株）北日本製作所室蘭地区）から発表されました。このままではマチはますます沈んでしまう、何とかしなければと一人のロータリアンがクラブの例会で卓話をしました。「室蘭は大

企業中心の企業城下町だが、企業に依存せず、市民一人ひとりが立ち上がらなければならない」そうして1,000人以上の市民大集会を開催しました。行政に頼っているばかりではなく、市民の力を結集し再興へ向け、市民財団、市民協議会、すなわち室蘭ルネッサンスが誕生しました。その時市民に配布されたパンフレットには「市民一人ひとりが主役であるとの認識に立って新しいまちづくりを目指し(中略)あなたの力が、知恵が、お金が室蘭再生の鍵を握っています。郷土を愛する市民の皆さん今こそ共に立ち上がろうではありませんか」と結んでいます。再生へのキャッチフレーズは「この街が好きだから いま室蘭ルネッサンス」。この時に始まった事業の一つが測量山ライトアップでした。室蘭半島の中心にある測量山の頂上にあるテレビ塔をカラーの電灯で照らすことにより幻想的な光芒はとても美しく、多くの市民の心を打ちました。全国、全世界で建物を光に当てるライトアップはたくさんあります。その中で「測量山ライトアップ」は1日4千円の点灯料でそれと共に提供者の想い、願い、祈りのメッセージが寄せられ、それが光に乗せられて輝くのです。そのメッセージは新聞、インターネット、ラジオで掲載、放送されています。それが8月31日で12,330日（約33年9か月）も続いているのです。あなたも光のプレゼントをしてみませんか？

Rotary  **District2510**